

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4672200112
法人名	有限会社 童里夢
事業所名	グループホーム どリーむ
訪問調査日	平成22年3月24日
評価確定日	平成22年5月13日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4672200112
法人名	有限会社 童里夢
事業所名	グループホーム どリーむ
所在地	鹿児島県指宿市開聞十町5210-4 (電話) 0993-32-0313

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年3月24日	評価確定日	平成22年5月13日

【情報提供票より】(22年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 14 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000円		その他の経費(月額)	5,000円	
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	130円	昼食	300円	
	夕食	300円	おやつ		円
	または1日当たり円				

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 78 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇宿皮膚科・福岡医院・鶴留医院・赤崎病院・宮園病院・開聞歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道沿いの自然豊かな開聞の地に立地し、運営者宅が隣接して、小さな集落ではあるが災害対策など地域の協力体制が構築されているホームである。「地域と共に支え合いながら日々穏やかに過ごす」と理念にあるように、利用者は近所の友人宅を訪問したり、子どもたちが遊びに来たりと地域と融合し、ゆっくりとした時間を過ごしている。地域がら食材も新鮮で旬の野菜や地元の獲れたての魚など季節のものをふんだんに取り入れ、利用者とともに献立を考えるなど、安全で楽しみな「食」を提供している。また、家族の負担軽減にと家賃などの利用料を安価に抑えるなど配慮している。開設6年が経ち、利用者の平均年齢も高くなりなかなか外に出る機会も少なくなっているが、家にいるときと同じように静かな時間を過ごし、穏やかに生活している様子が伺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化や終末期に向けた対応指針の作成については職員全員で話し合い、今年度には作り上げるように前向きに検討している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は職員に意見をもらいながら管理者がまとめあげた。日々の業務の振り返りになりレクリエーションについての意見や外部評価で受けたアドバイスを活かし業務の担当を決めるなどサービスの質の向上に活かされている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	民生委員、自主防衛隊の地域の方、有職者、家族代表、行政職員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。外部評価での改善項目についてやホームの運営上の問題について意見や助言をもらい、解決に向け運営推進会議が活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目	面会時や毎月の報告時に意見や相談を聞き出すようにコミュニケーションを図っている。出された意見、要望は運営者に報告し、可能な限り応えられるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	運営者宅が隣接し、地域との付き合いや災害時における協力体制が構築されている。小さな集落で自治会としての行事は少ないが、豊年祭りに参加したり近所の方々や駅伝の応援をしたりと交流の機会を作っている。また、近所の友人宅に遊びに行ったり、子どもたちが遊びにきたりと地域に自然と溶け込んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、事業所の理念を集約して簡潔にした地域密着型サービスとしての理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、ホール、職員室に掲示している。日々の申し送りやミーティング時に意識付けを行い、常に理念に沿ったサービスの提供に心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者宅が隣接し、地域との付き合いや災害時における協力体制が構築されている。小さな集落で自治会としての行事は少ないが、豊年祭りに参加したり近所の方々と駅伝の応援をしたりと交流の機会を作っている。また、近所の友人宅に遊びに行ったり、子どもたちが遊びにきたりと地域に自然と溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員に意見をもらいながら管理者がまとめあげた。日々の業務の振り返りになりレクリエーションについての意見や外部評価で受けたアドバイスを活かし業務の担当を決めるなど、サービスの質の向上に活かされている。また、改善点については運営推進会議で意見や助言をもらうなどして改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、自主防衛隊の地域の方、有職者、家族代表、行政職員などの参加を得て2ヵ月に1回開催している。外部評価での改善点についてやホームの運営上の問題について意見や助言をもらい、解決に向け運営推進会議が活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護サービスについての相談や助言をもらうなど機会を捉えては連携をとるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話で日常の様子や健康状態の報告を定期的に行っている。金銭管理は立替を行っているため管理はしていない。職員紹介も面会時に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は家族などの意見を汲み取る重要性を認識し、重要事項説明書に行政の相談苦情受付窓口を明記している。職員も面会時や電話での連絡時などに意見を聞き出すように努めている。出された意見、要望は運営者に報告し、可能な限り要望に応えられるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さを認識しており法人内異動はしていない。離職も少なくほとんどの職員が2年以上勤務している。代わる場合は利用者へのダメージがないように在職者が配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の必要性を理解し、常勤、非常勤に関わらず、全職員が交代で外部研修に参加できるように考慮しており、参加者は研修報告をして全員が知識を共有できるようにしている。また、研修計画も作成しており毎月のミーティング時にホーム内研修を行っている。ホームとして資格取得の支援もしている。また、業務の担当を決めており職員の意識向上にもつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に加入し、管理者、職員は研修などに参加して情報交換や交流に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅、施設、入院先などで本人と面談をし、思いや希望などを聞き信頼関係を築けるように努めている。入居後も家族の協力をもらいながら徐々になじめるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を介護されるのみの立場に置かず、昔の話や歌、ことわざなどを教わり、会話を楽しみながら喜怒哀楽をともにしている。また、ホーム内に掲示する理念を毛筆で書いてくれたことに感動したり支え合う関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、言動や表情を見過ごさないようにして個々の生活歴や思いを把握し、本人本位に検討している。また、理念にも「自己決定権の尊重」とあり、利用者の思いや意向を引き出すように心がけたケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見や問題の検討を行い、本人本位の介護計画を作成している。また、職員は介護計画に毎日目を通し、プランに沿ったケアにあたるように振り返りながら支援している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングと状態変化時はその都度見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして利用者の健康状態を小まめに把握している。また、本人、家族の要望、状況に応じて、病院受診、理美容院の送迎など特別な外出の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。また、受診の際は付き添い、情報提供を行ってかかりつけ医との連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については面会時などに会話のなかで方向性を聞くようにしている。看取りの経験もあり、ホーム、家族、医師と都度の話し合いをもってチームとして取り組んだ。今年度はホームとしての方針を文書化したものの作成を検討している。		家族と早い段階から話し合いを持ち、方針を共有できるように今年度は対応指針の作成に職員全員で取り組むことを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライドを尊重し、個々に合った言葉かけに心がけている。職員採用時の個人情報保護についての誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるが、体調や希望に合わせた個別の支援を行っている。また、わかりやすい言葉で話しかけ、意思を示すことができるように工夫している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力に合わせて下ごしらえ、片づけなどを職員とともに行うなど、力を発揮する場面を作っている。職員が採ってきたつわの皮むきをお願いしたり、献立作成と一緒にしたりと食事を楽しむことができるように支援している。また、養命酒やコーヒーの希望にも対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回を目安にしているが、状況や利用者の希望に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	機能訓練を兼ねてストレッチ体操をしたり、歌やゲームなどホーム内レクリエーションを楽しんだりしている。また、畑作業や干し大根作りなどの生活歴や力を活かした支援や、ソーメン流し、花見などの気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外気浴を心がけ買い物同行など外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。昼間は鍵をかけず安全で自由な暮らしが送れるように支援している。ホーム内に死角になる個所があり、リビングにミラーを取り付けて職員は目配りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと職員のための自主的な避難訓練を昼夜間想定で行っている。また、地域の自衛消防隊の方々との協力関係も構築され、通報システムに自衛消防隊の方も入っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録し、水分は必要に応じて記録している。身体状況に応じて食事形態(おかゆや刻みなど)を考慮し、おわんにひと口位ずつ入れて食事を採ってもらう利用者もいるなど個々の状態や力、習慣に応じた支援を行っている。体重測定は毎月行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く、圧迫感がない。季節の飾り物を置いて季節感を出している。また、キッチンと一体化しているので生活感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や個々にお気に入りの寝具が持ち込まれ個性のある居室作りが出来ている。また、畳の居室もある。各居室に換気扇があり換気についての配慮もされている。		